

2022年5月号



復活教会便り

電話 082-227-1553

献金用口座 (ゆうちょ銀行) 日本聖公会広島復活教会 店名五一八 (5 1 8) 普通 1377700



CHURCH OF THE RESURRECTION

洗礼・堅信式

4月3日(日)の礼拝の中で、ボアズ田中穂積さんの洗礼・堅信式が行われました。洗礼・堅信式文の中にある「信仰告白」等を堂々と答える姿に、当日出席された多くの方は感銘を受けられたと思います。

田中さんには、教会から祈祷書をプレゼントさせていただきました。これは、



前任の藤井司祭の提案で始まったものですが、個人的にもとてもよいことだと思っています。何故なら、洗礼は本質的には教会に接されるという共同体的な出来事であると考えられているからです。その為、祈祷書には洗礼の直後に「迎え入れ」という部分があります(282頁)。私たちの仲間として迎え入れるということは、一緒に教会での生活を歩いていくことに繋がると

思います。ですから、教会として新しく洗礼を受けた人を歓迎するという意味で、「祈祷書」をプレゼントしています。教会での



「祈祷書」をプレゼントしています。教会での

一緒に過ごす時間を通して、みんなで仲間になっていければと思います。

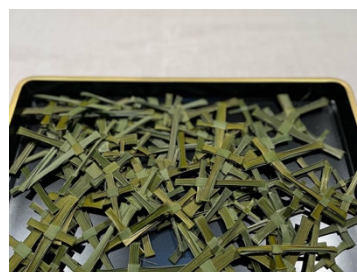
棕櫚の十字架について

4月10日(日)の復活前主日には^{しゅうろ}棕櫚の十字架の祝別を行い、皆さんにお配りすることができました。今年も教会の有志の方達が作ってくださいました。

復活前主日は、Palm Sunday(棕櫚の主日)と言われる日です。この日の礼拝では、伝統的に棕櫚を持った行列が教会の周囲を回って礼



拝を始め、イエスさまが十字架につけられた場面の聖書を読むことを大切にしてきたそうです。行列は、イエスさまのエルサレム入城を記念しています。聖書によれば、イエスさまがエルサレムに入場した時、人々は「木(なつめやし)の枝」を持



って出迎えました。そして、「主の名によって来られる方に、祝福があるように、イスラエルの王に。」と叫

び続けたと記されています(ヨハネ 12:12~13)。つまり、棕櫚の十字架は、「王であるイエスさま」の象徴だそうです。そして「王であるイエスさま」は、ご自身の命を十字架によって献げた

存在であるということです。私たちが棕櫚の十字架を持つのは、自らの命を人々に献げたイエスさまに倣うためという意図があると思います。日々の生活の中で棕櫚の十字架を見た時、イエス様の生涯を少しでも思い起こすきっかけになればと思います。

聖木曜日・聖金曜日・聖土曜日の礼拝

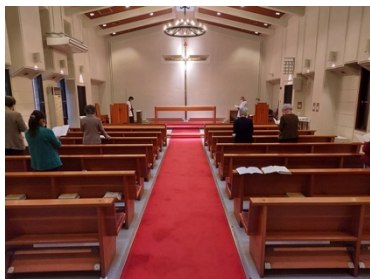
イースター（復活日）の前の三日間のことを聖なる三日間といいます。復活教会では、14日（木）に洗足式と聖餐式、15日（金）には受苦日の礼拝、16日（土）には聖餐式を行いました。

洗足式ではペトロが「わたしの足など、決して洗わないでください」（ヨハネ 13:8）と述べた一言の意味や、そのような弟子の足を洗ったイエスさまの思いを感じることができました。受苦日の礼拝では、イエスさまが十



字架にかけられた3時間を、聖書のみ言葉や詩編を通して思い起こしました。この日は、呉信愛教会からも、

数名の方が礼拝に出席してくださいました。「久しぶりにじっくり黙想をして、自分の心の思いと向き合うことができました」と仰っていた方もおられ、復活日に向けての準備の時となったと思います。



イースター礼拝

17日（日）は、復活日（イースター）の礼拝を行うことができました。当日は、ガールスカウ

トや聖モニカ幼稚園、栄光こども園の先生方も礼拝に出席してくださいました。久しぶりに教会に来ることができた方も多くおられ、再会を喜ぶ姿



も印象的でした。イエスさまのご復活を通して与えられた繋がりを、祝うことができた

と思います。また、当日は夕の礼拝に出席して下さった方もおられました。イースターの陪餐に与ることを希望される方は、教会までご連絡いただければと思います。司祭が日程調整の上、ご自宅にお伺いさせていただければと思います。



司祭 バルナバ 永野拓也